



2023年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月11日

上場会社名 株式会社And Doホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3457 URL <https://www.housedo.co.jp/and-do/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 安藤 正弘
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 CFO (氏名) 富田 数明 TEL 03-5220-7230
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第1四半期の連結業績（2022年7月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第1四半期	9,612	△13.2	343	△56.7	290	△58.8	174	△57.9
2022年6月期第1四半期	11,071	47.1	792	150.8	704	174.2	414	172.7

(注) 包括利益 2023年6月期第1四半期 199百万円 (△52.2%) 2022年6月期第1四半期 418百万円 (152.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第1四半期	8.93	8.84
2022年6月期第1四半期	21.21	20.93

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年6月期第1四半期	67,181	13,350	19.8	680.27
2022年6月期	65,495	13,852	21.1	706.07

(参考) 自己資本 2023年6月期第1四半期 13,309百万円 2022年6月期 13,813百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	36.00	36.00
2023年6月期	—	—	—	—	—
2023年6月期（予想）	—	0.00	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年6月期の連結業績予想（2022年7月1日～2023年6月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	22,904	2.8	1,596	△10.9	1,500	△14.2	990	△15.4	50.60
通期	46,582	12.5	3,452	20.2	3,300	12.0	2,178	11.4	111.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年6月期1Q	19,566,000株	2022年6月期	19,564,800株
② 期末自己株式数	2023年6月期1Q	561株	2022年6月期	561株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年6月期1Q	19,565,191株	2022年6月期1Q	19,556,164株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(表示方法の変更)	9
(追加情報)	10
(セグメント情報)	12
(重要な後発事象)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策の進展により各方面で影響が徐々に和らぐ中、持ち直しの動きが見られておりますが、ウクライナ情勢の長期化や世界的なインフレ、米欧の金利上昇の影響など先行き景気の下振れリスクには十分留意する必要があります。

当社グループの属する不動産業界におきましては、日銀の金融緩和政策継続により住宅ローン金利は引続き低水準を維持しており、堅調な住宅需要を背景に事業環境はおおむね良好に推移いたしました。

このような状況の下、当社グループにおきましては、新たに策定した2025年6月期を最終年度とする中期経営計画に基づき、一層の成長と発展による企業価値向上に努めております。フランチャイズ事業、ハウス・リースバック事業、金融事業、不動産売買事業を成長強化事業として経営資源を集中し、さらなる拡大に向けた人材及び広告宣伝等への積極投資を行い、各事業間の連携を密にすることで不動産×金融サービスの深化及び高収益体質化の促進を図ってまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間におきましては、売上高は9,612百万円(前年同期比13.2%減)、営業利益は343百万円(同56.7%減)、経常利益は290百万円(同58.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は174百万円(同57.9%減)となりました。

なお、前第3四半期連結累計期間より、従来「小山建設グループ」に含めておりました株式会社小山建設を「不動産売買事業」に変更し、また株式会社小山不動産を「ハウス・リースバック事業」及び「不動産売流通事業」に変更したため、「小山建設グループ」を廃止しております。

主なセグメントごとの経営成績を示すと、次のとおりであります。

(2022年9月30日現在)

セグメント名称	売上高 (百万円)	内 容
フランチャイズ事業	773	新規加盟契約数 25件、累計加盟契約数 682件 新規開店店舗数 31店舗、累計開店店舗数 607店舗
ハウス・リースバック事業	4,269	新規取得保有物件数 263件、累計保有物件数 680件 売却件数 204件
金融事業	159	リバースモーゲージ新規保証件数 86件、 不動産担保融資実行件数 23件
不動産売買事業	3,522	取引件数 146件
不動産流通事業	320	仲介件数 557件
リフォーム事業	566	契約件数 415件 完工件数 429件
その他事業	0	(欧米流) 不動産エージェンツ業、海外事業に係る各種取引
合 計	9,612	—

①フランチャイズ事業

フランチャイズ事業では、各種イベントへの出展やウェブ、紙面媒体等の積極的な広告宣伝活動に加え、知名度及び信用力向上に伴うブランド価値向上により加盟検討企業からの問い合わせは堅調に推移しました。特に開発余力の大きい首都圏を中心とした都市部の新規加盟開発に注力し、当第1四半期連結累計期間における新規加盟契約は25件を獲得し、累計加盟契約数は682件となりました。

また、スーパーバイザーの加盟店フォロー体制の強化や各種新規サービスの開発及び提携企業の拡充を進め、当第1四半期連結累計期間における新規開店店舗数は31店舗、累計開店店舗数は607店舗となりました。

その結果、セグメント売上高は773百万円(前年同期比8.8%減)、セグメント利益が519百万円(同14.1%減)となりました。

②ハウス・リースバック事業

ハウス・リースバック事業では、住みながら自宅を売却できる不動産を活用した資金調達方法として、老後の生活資金や事業資金への活用など、さまざまな顧客の資金ニーズに応じてまいりました。取組件数のさらなる拡大に向けた広告宣伝・人材投資の継続等により問合せ件数及び仕入契約件数は順調に推移し、当第1四半期連結累計期間におきましては、263件を新規に取得し、204件を再売買、処分及びファンドや不動産買取会社等へ売却しました。また、保有不動産は累計680件となり、賃貸用不動産として運用しました。

その結果、セグメント売上高は4,269百万円(前年同期比272.3%増)、セグメント利益が550百万円(同556百万円増)となりました。

③金融事業

金融事業では、グループの強みである全国ネットワークの査定力、販売力を活かし、不動産の活用により顧客の資金ニーズに対応してまいりました。リバースモーゲージ保証事業では、提携金融機関の新規開拓及び金融機関との連携強化によるリバースモーゲージの認知度拡大及び利用促進を図り、当第1四半期連結累計期間における新規保証件数は86件、累計保証件数は911件となり、保証残高は10,002百万円となりました。また、不動産担保融資では23件の融資を実行しました。

その結果、セグメント売上高は159百万円(前年同期比30.1%減)、セグメント利益が51百万円(同39.9%増)となりました。

④不動産売買事業

不動産売買事業では、住宅ローンの超低金利が続く中、消費者の住宅購入に対するニーズの底堅さを背景に、不動産売買仲介直営店との連携等により積極的な仕入及び販売を行ってまいりました。当第1四半期連結累計期間は、前年同期の大型物件の影響及び当期売買物件が期ずれにより第2四半期へ集中したことで、取引件数は146件(前年同期比6.4%減)となり、売上高及び営業利益は前年同期比を下回りました。

その結果、セグメント売上高は3,522百万円(前年同期比54.3%減)、セグメント利益が267百万円(同71.3%減)となりました。

⑤不動産流通事業

不動産流通事業は、不動産売買仲介事業を行っております。各種媒体を利用した広告宣伝及び地域密着型のポスティング戦略を通じた集客に注力し、また、ワンストップサービスの起点として、各事業とのシナジーを効かせた収益の獲得を図ってまいりました。住宅ローンの超低金利継続により実需は堅調に推移しましたが、一方で、注力事業への人員シフトのため店舗を統合したことにより、当第1四半期連結累計期間における仲介件数は557件(前年同期比28.8%減)となりました。

その結果、セグメント売上高は320百万円(前年同期比38.9%減)、セグメント利益が151百万円(同22.9%減)となりました。

⑥リフォーム事業

リフォーム事業では、不動産売買仲介事業との連携による中古住宅＋リフォーム受注や、住宅設備メーカー等とコラボレーションしたリフォームイベントを積極的に開催することで集客に繋げてまいりました。当第1四半期連結累計期間における契約件数は415件(前年同期比8.2%減)、完工件数は429件(同1.2%減)となりました。

その結果、セグメント売上高は566百万円(前年同期比8.8%減)、セグメント利益が35百万円(同39.1%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は67,181百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,685百万円の増加となりました。

主な増加要因は、ハウス・リースバック事業及び不動産売買事業における保有物件増加に伴い棚卸資産が6,040百万円増加したことによるものであります。

主な減少要因は、現金及び預金が3,876百万円、営業貸付金が675百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は53,831百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,188百万円の増加となりました。

主な増加要因は、短期借入金が857百万円、1年内返済予定の長期借入金が392百万円、長期借入金が1,136百万円それぞれ増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は13,350百万円となり、前連結会計年度末に比べ502百万円の減少となりました。

これは主として利益剰余金が、当第1四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により174百万円増加したこと及び配当金の支払いにより704百万円減少したことによるものであります。

項目	前連結会計年度 (百万円)	当第1四半期連結会計期間 (百万円)	増減 (百万円)
総資産	65,495	67,181	1,685
負債	51,643	53,831	2,188
純資産	13,852	13,350	△502

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年8月15日の「2022年6月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,319	10,443
受取手形、売掛金及び契約資産	316	327
販売用不動産	11,668	23,949
仕掛販売用不動産	4,180	6,872
未成工事支出金	282	291
関係会社短期貸付金	115	114
営業貸付金	4,792	4,117
その他	1,226	1,504
貸倒引当金	△26	△27
流動資産合計	36,875	47,593
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,590	6,902
減価償却累計額	△1,584	△1,468
建物及び構築物 (純額)	8,005	5,433
土地	14,784	8,280
その他	136	149
減価償却累計額	△88	△91
その他 (純額)	47	58
有形固定資産合計	22,838	13,772
無形固定資産		
のれん	453	424
その他	919	969
無形固定資産合計	1,372	1,394
投資その他の資産		
投資有価証券	2,564	2,747
長期前払費用	728	682
繰延税金資産	464	448
その他	692	574
貸倒引当金	△40	△31
投資その他の資産合計	4,408	4,421
固定資産合計	28,619	19,588
資産合計	65,495	67,181

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
工事未払金	838	1,071
短期借入金	9,446	10,304
1年内償還予定の社債	1,152	1,192
1年内返済予定の長期借入金	7,047	7,439
リース債務	4	4
未払金	842	711
未払費用	416	370
未払法人税等	519	83
未払消費税等	188	124
契約負債	1,359	1,426
賞与引当金	126	94
資産除去債務	1	9
完成工事補償引当金	4	4
その他	859	1,118
流動負債合計	22,807	23,955
固定負債		
社債	2,266	2,244
長期借入金	25,027	26,163
リース債務	14	13
長期預り保証金	969	909
繰延税金負債	453	449
資産除去債務	76	67
完成工事補償引当金	28	28
固定負債合計	28,835	29,875
負債合計	51,643	53,831
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,376	3,376
資本剰余金	3,394	3,395
利益剰余金	7,079	6,550
自己株式	△0	△0
株主資本合計	13,850	13,321
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△42	△24
為替換算調整勘定	5	12
その他の包括利益累計額合計	△37	△11
新株予約権	38	40
純資産合計	13,852	13,350
負債純資産合計	65,495	67,181

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
売上高	11,071	9,612
売上原価	7,594	6,320
売上総利益	3,476	3,292
販売費及び一般管理費	2,683	2,948
営業利益	792	343
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	1
匿名組合投資利益	19	10
受取手数料	2	5
持分法による投資利益	—	31
その他	22	28
営業外収益合計	45	77
営業外費用		
支払利息	85	112
持分法による投資損失	2	—
支払手数料	37	12
投資有価証券売却損	—	2
その他	7	3
営業外費用合計	132	130
経常利益	704	290
特別利益		
固定資産売却益	0	0
新株予約権戻入益	0	0
関係会社株式売却益	—	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	10	3
減損損失	—	10
特別損失合計	10	14
税金等調整前四半期純利益	694	277
法人税等	279	102
四半期純利益	414	174
親会社株主に帰属する四半期純利益	414	174

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	414	174
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	17
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	7
その他の包括利益合計	3	25
四半期包括利益	418	199
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	418	199

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

(表示単位の変更)

当第1四半期連結累計期間より、金額の表示単位を千円単位から百万円単位に変更しております。

(追加情報)

ハウス・リースバック資産の流動化

(1) 特別目的会社の概要及び特別目的会社を利用した取引の概要

当社は、資金調達先の多様化を図るため、ハウス・リースバック資産の流動化を行っております。

流動化におきましては、当社がハウス・リースバック資産（信託受益権等）を特別目的会社（合同会社の形態による）に譲渡し、特別目的会社が当該ハウス・リースバック資産を裏付けとして借入等によって調達した資金を、売却代金として受領しております。また、特別目的会社に対しては、匿名組合契約を締結しており、当該契約に基づき出資しております。

当期末現在のハウス・リースバック資産の流動化に係る特別目的会社は次のとおりであります。

なお、当社は、いずれの特別目的会社についても議決権のある出資等は有しておらず、役員の派遣もありません。

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
特別目的会社数	9社	10社
直近の決算日における資産総額	29,991百万円	32,743百万円
直近の決算日における負債総額	27,870百万円	30,471百万円

(2) 特別目的会社との取引金額等

前第1四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

	主な取引の金額 (百万円)	主な損益	
		項目	金額 (百万円)
匿名組合出資金	—	匿名組合投資損益	19
譲渡価額	—	売上高	—
帳簿価額	—	売上原価	—

(注) 株式会社ピーエムドゥは、特別目的会社に譲渡した物件の管理業務を受託しております。なお、金額については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

	主な取引の金額 (百万円)	主な損益	
		項目	金額 (百万円)
匿名組合出資金	141	匿名組合投資損益	10
譲渡価額	2,825	売上高	2,825
帳簿価額	2,234	売上原価	2,234

(注) 1. 譲渡資産に係る譲渡価額は売上高、譲渡資産の帳簿価額は売上原価に計上しております。

2. 株式会社ピーエムドゥは、特別目的会社に譲渡した物件の管理業務を受託しております。なお、金額については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

3. 当社及び株式会社ピーエムドゥは、特別目的会社に譲渡した物件の修繕工事を受託しております。なお、金額については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

固定資産から販売用不動産への保有目的の変更

(1) 保有目的の変更

当社グループは、中期経営計画において、フランチャイズ事業に加え、ハウス・リースバック事業、金融事業を成長強化事業と位置づけ、これまでに培った基盤を活かした持続的成長モデルの構築と業績の拡大に努めてまいりました。

2022年3月31日に発表した中期経営計画では、成長強化事業のさらなる拡大と不動産×金融サービスの深化により高収益体質化を促進し、一層の成長と発展による企業価値向上を目指しております。

このような状況の中、2013年10月のサービス開始から当社の主力事業へと成長したハウス・リースバック事業においては、仕入契約件数を拡大させる中で、ストック型の賃料収入を大幅に上回る流動化による売却収入を主たる収益として位置付けております。

それに伴い、当第1四半期連結会計期間の期首より、従来固定資産として計上していたハウス・リースバック物件等について、保有目的を固定資産から販売用不動産へ変更しております。

(2) 保有目的を変更する固定資産の概要

ハウス・リースバック及びハウス・リース物件

(3) 保有目的変更年月日

2022年7月1日

(4) 振替価額について

有形固定資産の建物及び構築物2,446百万円、土地6,468百万円及び無形固定資産のその他26百万円をそれぞれ販売用不動産へ振替しております。

(5) 今後の見通しについて

保有目的の変更による、当連結会計年度の業績に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	フラン チャイズ	ハウス・ リースバ ック	金融	不動産 売買	不動産 流通	リフォーム	計				
売上高											
外部顧客への売上高	847	1,146	227	7,701	524	621	11,069	1	11,071	-	11,071
セグメント間の内部売上高又は振替高	23	15	3	0	107	-	150	-	150	△150	-
計	871	1,162	230	7,702	632	621	11,220	1	11,221	△150	11,071
セグメント利益又は損失(△)	604	△5	36	931	196	25	1,789	△4	1,785	△992	792

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、(欧米流)不動産エージェンツ業及び海外事業に係る各種費用によるものであります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△992百万円には、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△995百万円、棚卸資産の調整額△0百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年7月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	フラン チャイズ	ハウス・ リースバ ック	金融	不動産 売買	不動産 流通	リフォーム	計				
売上高											
外部顧客への売上高	773	4,269	159	3,522	320	566	9,611	0	9,612	-	9,612
セグメント間の内部売上高又は振替高	17	31	6	5	154	0	215	-	215	△215	-
計	790	4,301	165	3,528	475	566	9,827	0	9,828	△215	9,612
セグメント利益又は損失(△)	519	550	51	267	151	35	1,576	△2	1,573	△1,230	343

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、(欧米流)不動産エージェン業及び海外事業に係る各種費用によるものであります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△1,230百万円には、セグメント間取引消去△10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,204百万円、棚卸資産の調整額△15百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント区分の変更及び廃止)

- (1) 2022年1月1日付で実施した持株会社体制への移行に伴い、株式会社小山不動産の不動産売買仲介業を株式会社ハウズドゥ住宅販売へ吸収分割し、また不動産賃貸管理業を株式会社ピーエムドゥへ吸収合併しております。それに伴い、前第3四半期連結累計期間より、報告セグメントを従来の「小山建設グループ」から「不動産流通」及び「ハウス・リースバック」に変更しております。
- なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、これらの変更を反映したものを開示しております。
- (2) 前第3四半期連結累計期間より、株式会社小山建設について、各セグメント区分への適切な反映を図るため、報告セグメントを従来の「小山建設グループ」から「不動産売買」に変更しております。それに伴い、「小山建設グループ」の区分を廃止しております。
- なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、これらの変更を反映したものを開示しております。

(重要な後発事象)

(完全子会社間の吸収合併契約の締結)

当社は、2022年10月17日開催の取締役会において、当社の完全子会社である株式会社小山建設と当社の完全子会社である株式会社ハウドゥ・ジャパンとの吸収合併契約締結を承認することを決議し、同日付で吸収合併契約を締結いたしました。

(1) 本吸収合併の目的

前第3四半期連結累計期間において、当社グループが今後より一層経営基盤を強化し、積極的な業容拡大と持続的な成長及び発展による企業価値向上を目指すために、グループガバナンスの強化及び経営資源配分の最適化並びに次世代に向けた経営人材の育成、機動的な組織体制構築を推進する観点から、持株会社体制への移行を実施いたしました。

その一環として、より一層の経営の合理化及び効率化、シナジーの強化等を図るべく、本件契約の締結を決定いたしました。

(2) 株式会社小山建設と株式会社ハウドゥ・ジャパンとの取引の概要

① 結合当事企業の名称及び事業の内容

吸収合併存続会社

名称 株式会社ハウドゥ・ジャパン

事業内容 不動産売買事業、リフォーム事業

吸収合併消滅会社

名称 株式会社小山建設

事業内容 不動産売買事業、建設事業

② 企業結合日

2023年1月1日(予定)

③ 企業結合の法的形式

株式会社ハウドゥ・ジャパンを存続会社とし、株式会社小山建設を消滅会社とする吸収合併

④ 結合後企業の名称

株式会社ハウドゥ・ジャパン

(3) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理を行います。